

新規事業採択時評価結果（平成26年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業の概要

事業名	一般国道41号 おおさわのとやまのみみ 大沢野富山南道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：富山県富山市楡原 至：富山県富山市栗山	延長	12.0km		
事業概要	大沢野富山南道路は、地域高規格道路富山高山連絡道路の一部を構成する道路で、富山県富山市楡原から富山市栗山に至る延長12.0kmの道路である。				
事業の目的、必要性	本事業の整備により、交通渋滞の緩和、交通事故の減少、冬期における安全・円滑な交通の確保、企業団地計画の促進に資する輸送の効率化、並びに災害危険箇所の回避により地域の産業を支える物流の信頼性向上を図る。				
全体事業費	約380億円	計画交通量	約10,900～22,800台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
【富山県知事】
「一般国道41号 大沢野富山南道路」の予算化について、同意します。当該道路は、地域高規格道路 富山高山連絡道路の一部となることから、本道路の整備によって、本県と岐阜県との結びつきがさらに強まり、物流や地域経済の活性化、人の交流が活性化するものと期待しております。また、現国道41号の交通渋滞や交通事故、災害危険箇所を抜本的に解消し、道路交通の円滑化や災害時における緊急輸送路の確保、救急医療体制の充実に大きく寄与するものと考えております。つきましては、本道路の新規事業化と早期完成に向けて、特段のご配慮をお願いいたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
・費用対便益：便益が費用を上回っている。
・手続きの完了：都市計画決定手続き完了（H23.12.9）

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.8	総費用 312億円 (事業費：261億円 維持管理費：51億円)	総便益 552億円 (走行時間短縮便益：437億円 走行経費減少便益：71億円 交通事故減少便益：44億円)	基準年 平成25年	
	感度分析の結果		交通量変動 B/C=1.5 (交通量 -10%)	B/C=1.9 (交通量 +10%)		
			事業費変動 B/C=1.6 (事業費 +10%)	B/C=1.9 (事業費 -10%)		
			事業期間変動 B/C=1.6 (事業期間 +20%)	B/C=2.0 (事業期間 -20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	通過交通がバイパスへ転換し、現国道41号の渋滞が緩和する。 【国道41号の混雑度】 現況 1.32(平日) → 整備後 0.93(平日)		
		事故対策	◎	渋滞の緩和等により、交通事故が減少する。 【国道41号の事故件数】 現況 51件/年 → 整備後 42件/年		
		歩行空間	—	注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	冬期における安全・円滑な交通が確保される。		
		地域経済	◎	交通混雑の緩和、交通事故の減少により、沿線に集積する企業の輸送が効率化され、企業団地計画の促進等、地域の更なる発展に寄与する。		
		災害	◎	国道41号の災害危険箇所を回避する。		
環境		—	注目すべき影響はない。			
	地域社会	○	災害危険箇所の回避により安定的な輸送経路が確保され、医薬品製造業等の地域の産業を支える物流の信頼性が向上する。			
事業実施環境	○	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画決定手続き完了（H23.12.9） ・富山県知事より新規採択について強い要望を受けている。 				

対応方針

費用便益比が1.8と便益が費用を上回っているとともに、都市計画決定手続きが完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。
また、通過交通がバイパスに転換することで渋滞の緩和及び交通事故の減少が期待できるほか、冬期における安全・円滑な交通の確保、企業団地計画の促進に資する輸送の効率化が図られ、更に災害危険箇所の回避により物流の信頼性が向上する等、事業の必要性・効果は高いと判断できる。
以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。